

岡崎市民病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 高齢消化器がん患者の周術期身体機能低下の特徴と関連因子の検討

[研究責任者] 医療技術局リハビリテーション室 笥明夫

[研究の背景]

日本人が一生のうちのがんと診断される確率は2人に1人以上であり、年齢の増加とともに上昇し、80歳以上は高水準で推移しています。がんの部位別では消化器がん（胃がん、大腸がん、肝臓がん、膵臓がんなど）の発症率は全がんの45%を占めると報告され、近年、技術の進歩から手術による身体への負担軽減され高齢患者への手術適応が増加しており、消化器外科手術における全年代で80歳以上のみが年々割合を増加させています。また80歳以上では要介護者の増加、日常生活動作能力低下などの急速な変化、消化器がん患者さんの手術後合併症に影響し、要介護の前段階といわれる身体機能が低下した状態であるフレイルの状態の方が多いという状況があり、手術前後のリハビリ対応の必要性が増大しています。しかしながら80歳以上の高齢消化器がん患者さんの手術前後の身体機能低下について、その概要は明らかになっていない状況です。そのためリスクの高い年代である80歳以上の高齢消化器がん患者さんにおける周術期の身体機能低下の特徴や関連する要因を調べることで、必要性の高い患者さんを事前に選択し、手術前後のリハビリ介入等による術後の要介護、日常生活動作能力低下予防の参考としたいと考えています。

[研究の目的]

本研究では80歳以上の高齢消化器がん患者さんの手術後の身体機能低下の特徴を明らかにするとともに80歳以上の高齢消化器がん患者さんにおける手術前後の身体機能低下に関連する要因を探索することを目的としています。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

消化器がんの患者さんで、西暦2022年6月1日から西暦2024年2月29日の間に手術治療を受けた方

●研究期間：西暦2024年3月11日から西暦2025年3月31日

●利用する検体、カルテ情報

検体：なし

カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、がん関連情報、検査結果（血液検査、

画像検査、呼吸機能検査)、手術情報、化学療法に関する情報、入院中のリハビリ経過、栄養関連情報、身体機能評価

[研究組織]

この研究は、多施設との共同研究で行われます。研究で得られた情報は、共同研究機関内で利用されることがあります。情報は、電子データとしてファイルにパスワードロックをかけた状態でメールを用いて提供されます。

●研究代表者 医療技術局 リハビリテーション室 正理学療法士 笥 明夫

●その他の共同研究機関 名古屋大学医学系研究科

研究責任者 教授 杉浦 英志

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は名古屋大学大学院修士論文、学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

岡崎市民病院

444-8553 愛知県岡崎市高隆寺町字五所合3番地1

医療技術局リハビリテーション室 笥 明夫

電話 0564-21-8111 FAX 0564-25-2913